

第1回 第3次沼津市子ども読書活動推進計画策定懇話会 【書面協議の概要】

第1回第3次沼津市子ども読書活動推進計画策定懇話会は、令和3年8月25日（水）の開催を予定していたが、新型コロナウイルスに係る静岡県への緊急事態宣言の適用を受け、会議方式から書面協議に変更したので以下に策定懇話会委員からの意見概要を記す。

書面回答期間 令和3年8月26日（木）～9月3日（金）

- 送付資料
- ・資料1：第3次沼津市子ども読書活動推進計画の策定体制とスケジュールについて
 - ・資料2：第2次沼津市子ども読書活動推進計画の進捗状況及び評価
 - ・資料3-1：読書に関するwebアンケート調査結果
 - ・資料3-2：子どもの読書に関する保護者webアンケート調査結果
 - ・第2次沼津市子ども読書活動推進計画

【委員からの意見の概要】

（資料2：第2次沼津市子ども読書活動推進計画の進捗状況及び評価）

- ・「幼児への読み聞かせをしている家庭」の割合が減っている。親子の対話の時間や読み聞かせの時間が、親子それぞれでゲームや携帯電話の使用などによって代わっている実態があるのではないかと。次回のアンケートに、「家時間の使い方」の設問を追加すると、実態がみえるのではないかと。
⇒（図書館：回答）次回計画改定時、アンケート設問の参考にさせていただきたいと考えています。
- ・「家庭における読書活動」で、読み聞かせしている家族の割合が減った要因は何か？
⇒（図書館：回答）保護者が多忙のため「幼児への読み聞かせ」まで手が回らない現状が要因のひとつと考えます。
- ・幼稚園、保育所、学校の「読書の大切さについて、保護者への啓発に取り組んだ割合」が低下している要因は何か。
- ・「家庭への啓発」として、親子読書や読み聞かせなど、保護者への啓発が一番難しいと考えるので、各学校が作成する「図書館だより」を充実させ、学校司書研修会等でも取り上げて欲しい。
⇒（図書館：回答）市立図書館では、年に3回程度、学校図書室の運営の一助となるように「図書館支援員（学校司書）」研修会を企画し、児童本の選書方法や、図書館情報等をわかりやすく伝えており、この中で広報についても取り上げていきたいと考えています。
- ・家庭への啓発や図書館と学校との情報交換が、まだ不十分であると感じる。
⇒（図書館：回答）第3次計画では、図書館と学校との連携や情報交換について強化する内容とするように努めます。

- ・「子ども読書の日・読書週間」に関連した学校での取り組みの割合が低いので、市立図書館や教育委員会が連携して学校に依頼することも一つの手段である。
⇒（図書館：回答）市立図書館では、「子ども読書の日・読書週間」に合わせ毎年講演会・企画展等を開催し、幼稚園・保育所、小中学校にポスター及びちらしの配布等による周知をしております。今後は、さらに学校と連携して「子ども読書の日・読書週間」の情報提供や、おすすめ本コーナーの設置などを啓発していきます。
- ・「子ども読書の日」「読書週間」での啓発活動が少ないと読み取れた。
⇒（図書館：回答）第3次計画では、「子ども読書の日」「読書週間」での啓発活動を、図書館だけでなく学校等と連携し、強化していきたいと考えています。
- ・学校での「読書の日」の啓発評価がCとあるが、これはむしろ良いことだと考える。つい押しつけがましくなってしまう面があり、「良いから読みなさい」と押されると引いてしまいがちになる。推薦図書クイズバトルやランキングなど、楽しく誘導してはと思う。
⇒（図書館：回答）今後の参考とさせていただきます。
- ・地域における読書活動が高い評価を受けており、市民が読書活動に熱心に取り組んでいることが分かった。地区センターの取り組みが効果をあげているのは、市立図書館と地区センターが意思の疎通を図っている結果と思う。
- ・「学校での朝の読書活動」が、平成24年、令和2年度と目標に達し、子どもたちの読書習慣に大きな効果があったと思う。そうした中で、朝の読書活動の具体的な内容を知りたい。
⇒（図書館：回答）朝の読書活動を実施している小学校は多く、それぞれ独自の方法で行っているようです。一例として、市立高中等部では、始業前の10分間、各生徒が持参した本を読み読書記録をつけています。
- ・ボランティアの方による読み聞かせは、コロナ禍では、今後は、リモートによる実施などの工夫が必要ではないか。
⇒（図書館：回答）市立図書館では、昨年度、ボランティアの方にご協力をいただき、「ぬまづ昔ばなし」の読み聞かせ動画配信を行いました。作品の著作権等のハードルがありますが、可能なことから取り組んでいただければと考えます。
- ・「家庭で本を読む子どもの割合」が、10年前と比べ20%増加したことは素晴らしい成果である。学校での朝の読書活動が100%目標達成されている。プラスの成果を報告書にして各学校に配布すれば励みになるのではないか。
⇒（図書館：回答）学校での朝の読書活動は重要であるので、継続して実施する予定です。学校への報告書配布については実施する予定です。
- ・読書習慣の伸びがみられたことは良い結果だと思う。「本好き」の伸びを得るには、地道に読書する時間を設ける等やっていくことだと思った。
- ・第3次計画では、時代の変化に柔軟に対応したもの、現場の実態を配慮したものを取り入れていく必要を感じた。
⇒（図書館：回答）第3次計画は、インターネットやSNSの普及などの時代の変化に柔軟に対応しつつ、現場の実態に配慮した内容としたいと考えています。

- ・第3次計画では、コロナの影響を受けにくい指標や目標が求められるのではないか。
⇒（図書館：回答）第3次計画期間は、コロナと共存する時代でもあるため、指標や目標について配慮した内容とするように努めます。
- ・地区センターでの貸し出し数の低下はコロナ禍によるものなのか。
⇒（図書館：回答）令和2年度における地区センター図書室での貸出数の減は、コロナ禍における休館や利用制限等などによるものと考えています。
- ・総評の中で、「週に1度は家庭で本を読む子どもの割合」が前回から大幅に増加し、読書習慣が身についたと言う評価だが、その大きな要因は何か？
⇒（図書館：回答）幼稚園、保育所、学校での読書活動が100%近く実施されていることから、日常的に本を読むことで、読書が子どもたちにとって身近なものになった結果であると考えます。
- ・市立図書館のカードを持っている小学生の割合はどの位でしょうか。1人1枚持つようにし、月に1回でも自動車文庫が学校に来て借りられたら楽しい仕掛けになるのでは。
⇒（図書館：回答）図書館利用者カードを持っている小学生の割合ですが、市内小学生7,811人（令和3年度『沼津の教育』による）の内、7歳から12歳までの図書館利用者カード所持数は、4,136人で、割合では52.9%となっています。
自動車文庫は、一部の学校に巡回しておりますが、他の巡回ルートもあるため、対応可能か内部検討が必要となります。
- ・小学生に、目の不自由な方などのための、音読ボランティアをしてもらってはどうか。
⇒（図書館：回答）今後の参考とさせていただきたいと考えています。
- ・家読について、もっと対象を絞ってアプローチしてはどうか。乳幼児について、大きく3種類ある。(1)絵と詩的な言葉のリズムを楽しむ (2)ものがたり絵本 (3)図鑑。
(3)は、3歳以上になると興味を持ち始める。本好きにさせるのに大切なのは(1)(2)。
(1)(2)は、ご飯のあとや寝る前という保護者へのアプローチはどうか。
⇒（図書館：回答）今後の参考とさせていただきます。
- ・幼稚園、保育園等で、頑張らなければならないことは以下のようなことと考える。
待ち時間のTVやビデオをダラダラ流すのをやめる（目的を持って視聴するのはOK）、絵本は必ず毎日1冊以上は読む、出来るだけ絵本の貸出を行う、月刊絵本は、ものがたりに限定して実施する、保育者が、楽しく、面白く、わくわくするように読み聞かせる。
⇒（図書館：回答）今後の参考とさせていただきます。
- ・市立図書館における活動について、もっと利用しやすい方法を施策としてあげたらどうか、オンラインで図書カードの登録や本の貸出ができるようにする、電子図書の充実、推薦図書のPRなど。
⇒（図書館：回答）第3次計画策定の参考とさせていただきます。

(資料3-1：読書に関する web アンケート調査結果)

- ・幼児時代から義務教育で養った読書習慣は、成長しても続いていることがアンケートから読みとれる。「活字のあるものを読む」という習慣は、一朝一夕にできるものではなく、社会教育・学校教育・家庭教育等、子どもの教育環境で培っていくことが大切と思う。
⇒(図書館：回答) 読書習慣(本好き)の定着は、各所で読書に継続して取り組んできた結果の賜物であると考えています。
- ・web 保護者アンケートでは、それぞれのキーワードがインターネットやスマートフォン、タブレットなどカタカナで、時代を感じた。
- ・「読書が好きか」「きらいか」は小・中・高であまり差がないようだ。また、「本が好きになったきっかけ」で、「本のイラストや写真が魅力的だったから」という子どもが多く、本を視覚的に捉えることが、大きな要素になっているようだ。子ども達が、家で読書をしない理由のひとつに「読む時間がない」とあるが、ほかに打ち込んでいることは何か？
⇒(図書館：回答) 習い事や塾通いなどに時間を取られ、子どもたちに「読む時間がない」ことが推察されます。図書館に来館しなくても、いつでも、どこでも、読むことができる「ぬまづ電子図書館」をご利用いただきたいと思いますので、学校との連携を進めてまいります。
- ・読書活動を推進する上で、本との出会いの場を魅力的にするしかけの必要性を感じた。
⇒(図書館：回答)「ビブリオバトル」をはじめ、今後ともさまざまな本との出会いの場の提供に努めます。
- ・図書館内に、子ども自身の選んだ「一箱図書」などのコーナーを作ったら面白いのでは。
⇒(図書館：回答) 市立図書館児童室でも、子どもたち自身が好きな本を紹介する「押し本」コーナーを設置しています。
- ・「マンガ」を読むことは読書になるのか？
⇒(図書館：回答) 市立図書館でも、マンガで描かれた歴史、偉人伝、調べ学習などについての蔵書を備えており、子どもたちにも人気があります。マンガの種類は多数ありますが、本アンケートではマンガを読むことも「読書」としてはいますが、良質なマンガを選ぶような取り組みが大切です。
- ・「インターネットで本を読むか」という設問で、高校生の6割が「読む」との回答は、電子媒体の時代と実感する。今後は、学校の図書室や市立図書館などで多様な電子書籍を揃えていく時代と感じる。
⇒(図書館：回答) 市立図書館では、本年1月より電子書籍サービスを実施しており、今後も多様な選書を行い電子書籍サービスの周知に努めます。
- ・「読書」を推進すると言う時の「読書」には、インターネットでの読書も入ってくるのか。
⇒(図書館：回答) 電子書籍も普及しつつあるため「読書」には、インターネットを介した読書も含んでいます。
- ・学校の図書館には、タイムリーで気をひく本が沢山ある(最新のシリーズ、コナンのまんが歴史など)が、地区センターや図書館は、そういった本が少ない。
⇒(図書館：回答) 今後とも、タイムリーな選書を心がけるとともに、読みたい本を予約

する、購入するなどのリクエストを随時行っています。

- ・自力で市立図書館に通える子どもは限られる。そこで重要なのが、学校図書館と地区センター図書室の充実だと思うが、地区センターの利用が少ないと思う。(地区センターは)指定管理者導入施設なので、どの程度の活動が出来ているのか気になる。

⇒(図書館：回答)地区センター図書室の認知度をさらに高めるために、周知に努めます。

(資料3-2：子どもの読書に関する保護者 web アンケート調査結果)

- ・保護者アンケート集約数が、前回の922人から6,909人に増加したことは評価できる。
⇒(図書館：回答)保護者アンケート実施にあたっては、前回の抽出方式ではなく、市内の全就学前施設・小中学校の保護者を対象としたwebアンケートとし、多くの保護者の方が回答してくださいました。保護者、関係施設関係者の皆様に感謝申し上げます。

- ・保護者の回答率は約40%であり、保護者回答数の低さが気になる。設問の多さや保護者の興味の低さが要因か。

⇒(図書館：回答)保護者への設問は11問です。読書アンケートという名目なので、未回答は、子どもの読書に関する保護者の関心に左右されるものと考えます。今後とも家庭への継続的な取り組みが必要です。

- ・スマートフォンやタブレット、パソコン等を使ってインターネットで電子書籍を読む保護者が、半数近くいる。紙よりも電子が主流になる兆しか。電子書籍の普及は、子どもの読書活動推進にどんな役割を果たし、また、どんな影響を及ぼすのだろうか？

⇒(図書館：回答)いつでも、どこでも、読むことができる電子書籍による読書は、時間に余裕のない子どもにとっては、手軽で有効な手段のひとつと言えますが、紙、電子書籍といった媒体にかかわらず、本の楽しさを感じてもらうような施策が必要と考えます。

- ・保護者が電子書籍を読む環境は、まだ、一般的ではない。

⇒(図書館：回答)令和3年1月29日開館した「ぬまづ電子図書館」は、県内でもトップレベルの点数を備えています。今後も引き続き広報して参ります。

- ・「ブックスタート」や「ブックステップ」は、若い保護者への意識付けとして、大事な役割を果たしている。

⇒(図書館：回答)親子絵本ふれあい事業(プレボン)の3つの活動「ブックスタート」「ブックステップ」「ブックフォロー」を、今後も継続実施していきたいと考えています。

- ・保護者は子どもの読書環境を整える重要性は感じているので、行政や学校がサポートしていくことが鍵である。

⇒(図書館：回答)第3次計画で、取組を強化していきます。

- ・読書に関心のない親御さんにも本を知っていただく機会として、プレボン事業はとても大切である。

⇒(図書館：回答)プレボン事業は、今後も継続していきたいと考えています。

※プレボン事業とは「ブックスタート」「ブックステップ」「ブックフォロー」などの親子絵本ふれあい事業のこと

- ・コロナ禍が明けたら、子どもの本を購入している家庭が多いので、「親子ブックステーションマーケット」などを、図書館で開催してもよいのでは。
⇒（図書館：回答）ご提案を今後の参考とさせていただきます。
- ・忙しい保護者に、読書時間をいつとるのか、どういう本を選ぶと良いか、どんなふうに読むと効果的か、などの情報を伝えることは、ある程度必要だといえる。絵本を書店で買うと高いため、各幼稚園や保育園で月刊絵本の導入を進めることが効果的だと考える。

（その他）

- ・YAの棚がとてもわかりにくく、良い作品が多いのに残念である。児童室を卒業した読者に「君たちの本はここにあるよ」と教えてあげてほしい。
⇒（図書館：回答）YAコーナーの充実を図ります。
※YAとは、ヤングアダルト（Young Adult）略で、子どもから大人への転換期にある13歳から18歳の中高世代のこと。図書館ではYA世代にお勧めの本をそろえたYAコーナーを設置している。
- ・スマホやゲーム依存になる子どもが増加し、今後は本離れの傾向が顕著になってくるのではないかと。学校をはじめ、地域一体となって子どもの読書活動を推進する取り組みを強化していく必要がある。
⇒（図書館：回答）第3次計画で取り組みを強化していきます。
- ・前回の推進計画のテーマが「本を読む喜び溢れる町」とあるが、読書推進のためには個々のモチベーションに訴えかけるテーマが良いのではないかと。すでに子どもの多くが本が好きと答えているので、例えば「本好きがたくさん住むまち」など、更にムーブメントをおこしていくことが今回のテーマになると思う。
⇒（図書館：回答）今後の参考とさせていただきます。